

猛暑が続きますが、お元気ですか？

7月例会では Eテレ「バリバラ」の放送内容の紹介をしました。

「相次ぐ障害者監禁事件を考える」7月1日 19:00 放送

大阪府寝屋川市、兵庫県三田市の事件（当事者も家族も孤立し追い詰められている）
訪問活動を行っているクリニックとその成果など。

11月9日（金）10日（土） 甲州・東海ブロック高山大会

伊藤順一郎先生の「これからの精神科医療」のお話があります。

一日だけでも良いです。みんなで参加しましょう。

8月例会 講演会

日時：8月12日（日）13:30～15:30

会場：メディアコスモス かんがえるスタジオ

講師：市川直樹 先生（県精神保健センターの精神科医）

内容：「強迫性障害について」講演と質疑応答会

いろいろな疑問にも答えていただけたと思います。

広報「ぎふ」8月1日付に掲載の予定です。

皆さんの参加をお待ちしています。

9月例会 学習会

日時：9月11日（火）13:30～15:30

会場：南市民健康センター

「岐阜市保健所パンフレット Take it easy」の学習会

7月の予定でしたが、パンフレットが間に合いませんでした。

9月に変更します。

第24回 NHK ハート展 詩の募集

障害のある人が書いた100字程度の詩 応募締切 9月6日(木)

連絡先

「ぎふかれん」家族による家族のための電話相談 058-271-8169

火・木曜日 10:00~15:00

悩み、行事の案内などなんでも良いです。気楽にお電話して下さい。

岐阜市あけぼの会 役員の連絡先

服部 247-6004

熊谷 090-6578-9838

山内 246-0409

中村 090-7039-9447

石田 090-6084-2124

筒井 090-2685-0226

岐阜市楽らくクラブ (当事者会)

8月例会

日時 : 8月19日(日) 13~15時 (今月は 第3日曜日です。)

場所 : 日光コミュニティセンター

連絡先: 石田 吉保 (090-6084-2124)

山内久美子 (058-246-0409)

7月例会の報告

7月10日（火）南市民健康センター 13:30～15:30 参加者 20名

●会長より

「岐阜県障がい者芸術文化センター」が7月「ぎふ清流文化プラザ」にできました。月1回の{オープンアトリエ}で作品展示と創作活動が出来るそうです。

近年、Eテレなどで障がいの番組が時々放送されています。7月1日にも「精神障害者の監禁事件」が取り上げられました。

「岐阜市あけぼの会」のホームページでも、精神障害者に関係のある番組の紹介をしています。参考にして下さい。

●話し合いから

- ・心の病気は、(個人差・病気の種類にもよると思うが、)食事で治るのではないかな。
薬以外の治療法があるのではないのでしょうか。

- ・フィンランドではじまった「オープンダイアログ（開かれた対話）」という対話による治療が成果をあげている。

急性期の電話に24時間以内に対応し、本人・医師・医療スタッフ・家族などが、本人の望む場所で、毎日のようにミーティングを行う。それぞれの患者さんの特性を生かした質の高い医療を実践している。

- ・娘が大量のコーヒーを飲んでいることに気づかず、娘の陽性症状を引き起こしてしまったと思っています。カフェインばかり、たばこの吸い過ぎも同じように良くないでしょうね。

- ・先日、音楽療法の話を聴きました。音楽を聴くとその刺激が脳全体に働いて活性化させる作用があるといいます。(音楽以外の刺激はそれぞれの部位にしか働かないようです。)とくにクラシックは効果が高いらしいです。

認知症にも良いと聞きます。ぜひ、日頃から音楽に親しむと良いでしょうね。

第32回「知ってもらいたい心の病」講演会の内容

「精神障がい者が、親なき後に、だれもが安心して地域で暮らすために」

のぞみの丘ホスピタル 院長 児玉佳也 先生

2018/07/21 (土)

家族会の家庭で起こりそうな、親亡き後

(親の支援の下、通院しながら、地域で生活している人を対象にした話)

児玉先生は実際にかかわった患者さんの例を具体的に分かりやすく紹介されました。

*親亡き後、長期入院になった。←社会復帰サービスがなかった。

*親亡き後、好転した。←親の高EEから解放された。

治療・サービスにつながった。

High E. E. Family (Expressed Emotion)

日本の「親依存の医療・福祉」

親の機能：仕事：通院、服薬、生活管理、本人の理解・支援など

親の苦しさ：負い目、入院がかわいそう・つらい、暴力への恐怖、いろんな不安

本人の自立（親の支援・庇護のもとにある本人は自立していない。）

自立は尊厳の源 「援助を受けた自立」サービスを利用して地域で生きてゆく。

チーム医療のモデル転換（本人はできることを実行して問題解決に貢献。身を委ねる

受け身ではない。）

インフォームド・コンセント（説明と同意）とは、

1、否認と孤立 2、怒り 3、取引 4、抑うつ 5、受容

受け入れてくれた者を「信頼」する→提案を「信用」し、採用する。

命がけの選択：自己決定 人の尊厳が輝くとき

正しい情報提供と正しい治療選択ではない。

事実の受容と自己決断のプロセスである。

人は存外と たくましいものです。